

発刊の辞

専修大学社会知性開発研究センター／社会関係資本研究センターによる研究プロジェクト「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築：東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」（平成21年度～25年度）は、平成21年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定されました。

多様に展開している東アジアの国々・地域は、20世紀後半以降、目覚ましい経済成長を遂げています。それは、政府・国民の自覚的かつ戦略的な意図と意思によるだけでなく、国際的な政治経済状況に恵まれた側面もありました。もちろん、その発展も一様ではなく、経済面に限定しても数度の困難な状況がありました。しかし、一定の経済的成果に加えて安定した政治状況の定着・浸透は、この東アジアのさらにこれからの持続的発展を確信させます。それを、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）に着目して、コミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から考察・分析しようとするのが、本研究プロジェクトの狙いです。ここで、コミュニティとは、文字通りの地域社会だけでなく、家族や、その生活が拠って立つビジネスなども含みます。セキュリティには、インフラストラクチャー（ハードなものは公共施設などの社会資本、ソフトなものはさまざまな法律・制度など）や、国・社会の安定化のために動員され・活用されているさまざまな資源を含みます。市民文化では、近代的な市民社会の定着・浸透を確認するだけでなく、情報伝達・交換手段の進歩を踏まえた現代的な文化・芸術の伝統と革新を対象とする予定です。

基本的には、これら3分野をベースにした研究活動を実施し、それぞれの専門分野での実績のある方を講師にお招きした研究会を随時開催して知見を深めると同時に、現地への訪問調査や、アンケート調査などを実施する予定です。さらに、シンポジウムでは、基調講演者には、同テーマに関して学問的あるいは実務面で顕著な方を海外・国内からお招きするだけでなく、本研究プロジェクト・メンバーも適宜加わり、一般の参加者も含めた意見・アイデアの交換を予定しています。

そして、この年度末には、これらの1年間の活動記録である『社会関係資本研究センター年報』と、メンバーの手になる『社会関係資本研究論集』の第1号をそれぞれに刊行する運びとなりました。要するに、皆様が現在それぞれに手にされている冊子体がまさにそれに該当します。どうかご利用ください。このような刊行体制は、今後とも継続する予定です。皆様方にいささかでも有意義な情報・知見となれば、われわれにとってはおおいに光栄であると同時に、喜びです。

平成22年(2010年)1月

専修大学 社会知性開発研究センター／社会関係資本研究センター代表
大学院経済学研究科長・教授
原田 博夫